

## 2021年3月期第1四半期 連結決算ハイライト (IFRS)

### ■減収減益。

■緊急事態宣言の影響下、当期利益(親会社所有者帰属)は前年同期比約7割の水準。

◇収益	1,424 億円	15.5% 減収
◇営業活動に係る利益	34 億円	42.0% 減益
◇税引前四半期利益	34 億円	40.9% 減益
◇親会社の所有者に帰属する四半期利益	24 億円	33.0% 減益

(単位:億円)	2020/3期 第1四半期		2021/3期 第1四半期		前年同期比		2021/3期	
	金額	金額	増減額	増減率	見通し	進捗率	金額	進捗率
収益	1,684	1,424	△ 260	△15.5%	7,000	20.3%		
売上総利益	252	214	△ 38	△15.0%	-	-		
販売費・一般管理費	△ 195	△ 186	9	-	-	-		
その他の収益・費用	1	6	4	324.4%	-	-		
営業活動に係る利益	58	34	△ 25	△42.0%	270	12.5%		
利息収支	△ 6	△ 5	2	-	-	-		
受取配当金	4	4	△ 0	-	-	-		
その他の金融収益・費用	△ 0	△ 1	△ 0	-	-	-		
金融収益・費用	△ 3	△ 2	1	-	-	-		
持分法による投資損益	2	2	0	2.2%	-	-		
税引前四半期利益	58	34	△ 24	△40.9%	260	13.1%		
法人所得税費用	△ 18	△ 9	9	-	-	-		
四半期利益	40	25	△ 15	△36.9%	-	-		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	35	24	△ 12	△33.0%	145	16.3%		
1株当たり四半期利益 (円)	42.19	28.25	△ 13.94	△33.0%	173.63	16.3%		

【収益】  
電子・デバイスセグメント、鉄鋼・素材・プラントセグメントを中心に、260億円の減収。

【営業活動に係る利益】  
車両・航空セグメントでは微増も、食料セグメントを中心に、25億円の減益。

【税引前四半期利益】  
営業活動に係る利益の減少により、24億円の減益。

【親会社の所有者に帰属する四半期利益】  
税引前四半期利益の減少に伴い、12億円の減益。

(単位:億円)	2020/3末		2020/6末		前期末比	
	金額	金額	増減	増減率	金額	増減率
総資産	5,517	5,296	△ 221	△4.0%		
グロス有利子負債(注1)	1,434	1,385	△ 49	△3.4%		
ネット有利子負債	518	509	△ 9	△1.7%		
自己資本 (注2)	1,308	1,310	1	0.1%		
内、利益剰余金	695	694	△ 1	△0.2%		
内、その他の資本の 構成要素合計	79	82	3	3.7%		
自己資本比率 (注3)	23.7%	24.7%	1.0pt上昇	-		
ネットDER (注4)	0.40倍	0.39倍	0.01pt減少	-		

【総資産】  
営業債権及びその他の債権の減少等により、221億円の減少。

【有利子負債】  
ネット有利子負債は9億円の減少。

【自己資本】  
その他の資本の構成要素合計の増加等により、1億円増加。

自己資本比率は24.7%。  
ネットDERは0.39倍の水準。

(注1)グロス有利子負債は、リース負債を除いた社債及び借入金合計額  
(注2)自己資本は、資本の「親会社の所有者に帰属する持分」 (注3)自己資本比率=自己資本/総資産  
(注4)ネットDER=ネット有利子負債/自己資本

(単位:億円)	2020/3期 第1四半期		2021/3期 第1四半期	
	金額	金額	金額	金額
営業活動によるCF	18	78		
投資活動によるCF	△ 11	△ 18		
フリーキャッシュフロー	7	60		
財務活動によるCF	△ 41	△ 100		
現金・現金同等物の増減	△ 34	△ 40		
現金・現金同等物の期末 残高	853	870		

【営業活動によるCF】  
営業収入の積上げ等により、78億円のキャッシュ・イン。

【投資活動によるCF】  
有形固定資産の取得等により、18億円のキャッシュ・アウト。

【財務活動によるCF】  
借入金の返済や配当金の支払い等により、100億円のキャッシュ・アウト。

配当の状況	
【2020/3期】	
中間配当	1株当たり 30 円
期末配当	1株当たり 30 円
年間配当	1株当たり 60 円
【2021/3期】	
中間配当(予想)	1株当たり 30 円
期末配当(予想)	1株当たり 30 円
年間配当(予想)	1株当たり 60 円

	2019/3期	2020/3期	2021/3期 (予想)
連結配当性向	30.3%	34.8%	34.6%

(単位:億円)	セグメント情報								
	収益			営業活動に係る利益			親会社の所有者に帰属する 四半期利益		
	2020/3期 第1四半期	2021/3期 第1四半期	前年同期比 増減	2020/3期 第1四半期	2021/3期 第1四半期	前年同期比 増減	2020/3期 第1四半期	2021/3期 第1四半期	前年同期比 増減
電子・デバイス	556	437	△ 119	28	19	△ 9	18	10	△ 8
食料	629	619	△ 10	15	4	△ 11	9	4	△ 5
鉄鋼・素材・プラント	316	205	△ 111	4	0	△ 4	2	3	0
車両・航空	153	136	△ 17	9	9	0	6	6	△ 0
報告セグメント合計	1,654	1,398	△ 257	56	32	△ 24	36	22	△ 13
その他(含む調整額)	30	26	△ 4	3	2	△ 1	△ 0	1	2
総合計	1,684	1,424	△ 260	58	34	△ 25	35	24	△ 12

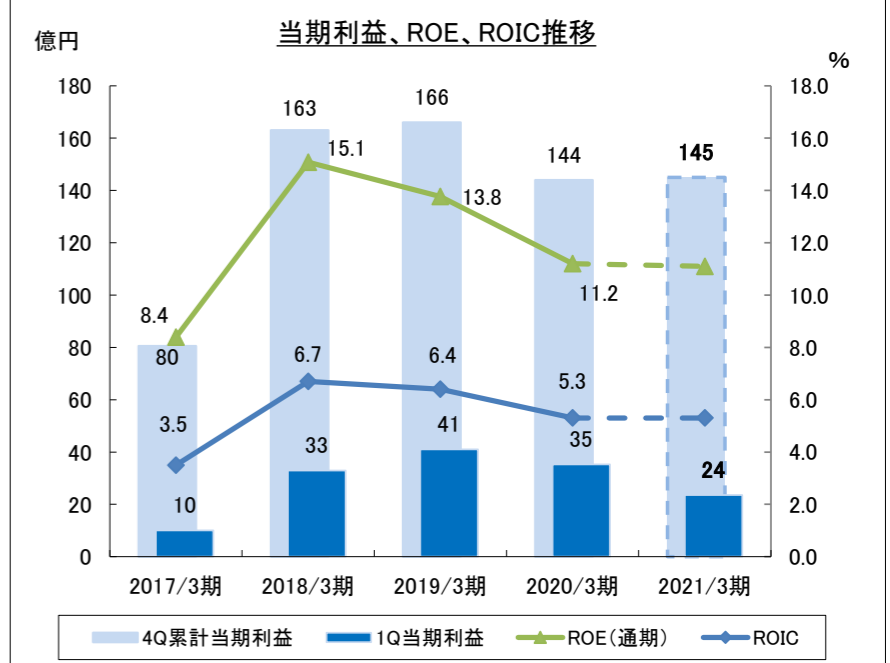
### 営業活動に係る利益の増減要因

【電子・デバイス】 減収減益  
ICTソリューション事業は、顧客への納入時期延期が影響したものの堅調に推移。モバイル事業は、来店者数減少に伴い減益。半導体・液晶製造装置取引は、引き続き中国での新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた。

【食料】 減収減益  
食糧事業は、農産油脂取引は巣ごもり・内食需要の高まりから一部商品は好調に推移したものの、飼料取引の不調により苦戦。食品事業・畜産事業は、内食需要を取り込み、食品スーパー向け取引は好調に推移したものの、緊急事態宣言により外出機会が大幅に減少した結果、外食向け取引が大きく落ち込み苦戦。

【鉄鋼・素材・プラント】 減収減益  
エネルギー事業は、需要が伸び悩む中、国内石油販売取引の採算が良化したことにより減収ながら増益。化学品事業も医薬品取引を中心に堅調に推移。油井管事業は、油価下落による掘削需要低迷の影響を受け、苦戦。工作機械・産業機械事業についても自動車産業低迷の影響、また鉄鋼事業においても自動車向け鋼材取引の低迷や海外ロックダウンによる商談停止の影響を受け低調に推移。

【車両・航空】 減収利益増ばい  
航空宇宙事業は、主力である航空機部品取引が順調に推移。車両・車載部品事業は、世界的な需要減少の影響を受けた。



\*本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
\*記載の数値は億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値が異なる場合があります。